



豊中市環境情報サロンに設置された太陽光の共同発電所

# 温暖化防止

## 豊中市環境情報サロン

# 太陽光発電

NPO法人「とよなか市民環境会議アッシュンタ21」などをつくる「市民共同発電実行委員会」は、豊中市曾根南町1の環境情報サロンに太陽光発電「エコSUN市民発電」を設置し、発電を開始した。太陽の恵みである自然エネルギーの意義をアピールし、地域で温室効果ガスを減らして地球温暖化防止を目指す。

市民共同発電所は、

# 市民が金出し合い設置

市民がお金を出し合い、公共施設などに自然エネルギーによる発電設備を設置する活動。装置は、同情報サロンのひさしにあたる場所に、多結晶シリコン製の発電パネル基板を20枚並べたもの(長さ約7・5メートル)。出力は2・16キロワットで、一般家庭1軒の半分ほどの電力を生み出す。発電した電気は施設への電力供給や、関西電力への売電にあてる。売電収入などは、2号機設置などのための基金に組み入れる。



市民共同発電所の点灯式で、「おひさま」を応援する歌やお遊戯を披露する保育園児たち

豊中市は07年11月、「地球温暖化防止地域計画」を策定し、2050年の温室効果ガス(二酸化炭素など)の排出を90年比で70%に削減する目標を掲げた。発起人たちは「目標を支持し、自らも取

り組む意思表示として太陽光パネルの設置を決めた」という。

このほど開かれた点灯式では、淺利敬一郎市長らが参加し、地元のおしま保育園の園児24人が「太陽さんもっとながらばって」と歌いながら、遊戯を披露した。同アッシュンタ21理事でこれまで生ごみのたい肥化などを研究してきた中村義世さん(69)は「この設備を太陽光発電を普及させる出発点としていきたい」と話している。

費用は、見えやすい場所に設置するなどしたため、通常よりも約100万円高い約290万円。うち50万円は府の補助金を使った。実行委では、1口3000円で個人や法人からの寄付を募っている。振込先は、同アッシュンタ21(三井住友銀行阪急曾根支店 普通

口座番号384343441)。問い合わせは06・68603・8792。【大島秀利】